

モニターアンケート集計結果概要 (平成18年度)

アジア歴史資料センター

今回は、平成18年10月のシステム更新に伴う新しい機能追加や利便性向上等の改善結果を中心にアンケート調査を実施しました(平成19年2月実施)。モニターはアンケート調査にあわせて新たに募集しました。モニター応募者224名のうち、163名から回答をいただきました。
全48問を集計した結果の概要は以下のとおりです。

1. 検索方法全体について

アンケート集計の結果、検索機能が良くなったという意見をいただきました。階層化などの検索機能の改善が高い評価につながったようです。しかし、階層検索の途中で簿冊名、件名を選択できるとか、さらに絞り込みができることを期待する声もあります。年表、人名一覧或いは年代地図からの検索方法なども検討する必要がありそうです。今後、階層構造を各所蔵館の分類と一致させる見直しもやらなければなりません。使い方やガイドなどを更に充実させることも課題です。

検索速度については、ターンアラウンドタイムが早くなったという意見があれば、google等のサーチエンジンと比較してもっと早くして欲しいという希望もあります。今回、トップページに簡易検索機能(キーワード検索)を用意しました。検索でヒットする確率を高めるために、先頭300文字という制限の中で難読語を減らし精度を上げることが必要だと考えます。

2. 画像表示について (DjVu、JPEG、JPEG2000)

画像表示に関しては、DjVu、JPEG、JPEG2000、PDF形式のどれが良いか、利用者の動作環境も絡んで意見が割れるようです。DjVuは画像が鮮明で軽いつい高い評価を得ているのですが、一般的なJPEGが良いという意見、少数ですがPDFを望む声もあります。共通するのは、軽く開き、操作感覚が快適で資料をより鮮明に見たいということです。さらに高解像度を望む声もあります。利用者にとっては選択肢が多い方がましいと意識しておりますが、MacOS X環境、Windows Vista環境のplug-inの対応遅れなど、こちらで解決できない問題を抱えております。また、今年から提供される国立公文書館の資料はJPEG2000となります。この評価については、次のアンケート調査に譲りたいと思います。

その他に以下のような意見がありました。

- ・拡大や縮小を自由自在にできるようにして欲しい。
- ・必要なところだけを印刷できるようにして欲しい。
- ・資料画像に枠取りを施して、背景色を黒ではなく白にして欲しい。印刷時に大量のインクを消費します。

3. 今後の特別展について

今後の特別展に関しては、いろいろな希望がありました。基本事業は、日本とアジア近隣諸国との近現代史デジタルアーカイブ(検索システム)の充実ですが、特別展に期待する声は、以下の例のように強く感じられました。

・硫黄島攻防戦に関するもの

・写真週報は今も研究が進んでおらず、政府広報の雑誌としては謎が多いと思います。私の勤務する戦争に関する資料館調査会でも写真週報がありますが、さわりの説明しかできません。この写真週報展で一歩踏み込んだ成果を期待します。今後のテーマとして、引き揚げ、復員に関する展示、子どもの教育についての展示があるといいと思います。

・日中戦争をはじめ近現代における日本とアジアとの関係史に力を入れてほしい。個々の事件、国ごとの

交渉などもお願いしたい。

4. インターネット上で公開して欲しい資料群

具体的な資料群名を聞くなど主に研究者向けの質問でしたので、モニターにとっては難しい設問でした。未記入可としました。所蔵館等との関係もあり、今後の参考にしたいと思います。

5. 整備対象について

国立公文書館、外交史料館、防衛研究所図書館以外で、今後、整備対象に含めて欲しい所蔵機関や所蔵資料群があるかをお聞きしました。こちらも未記入でも可としました。資料の所在調査など進めていきたいと考えます。天気図、古墳や民俗学などに関する公文書を探している方々には、国立公文書館デジタルアーカイブのご利用をお勧めしたいと思います。

6. アジ歴を利用している応用事例

- 近現代史の研究だけでなく、以下のように多面的に利用されていることがわかりました。
- ・現地日本人会において歴史勉強の資料として利用しています。
 - ・論文を書いているときに原資料から収集したものが欠けているところがありました。アジ歴を利用することで、東京に行かずに資料の確認ができました。
 - ・資料を収集する際にあまり注目していなかった問題が、論文執筆中に出てきたときすぐに確認することができました。
 - ・テレビを見ていて、歴史的な事でわからない言葉などが出てきたとき、すぐにアジ歴で調べて勉強している。
 - ・仕事柄アジア各国の現地社員を教育する機会があり、コミュニケーションの題材として使用している。
 - ・太平洋戦争展示の切り口やテーマ構築の参考にしている。
 - ・卒業論文の参考としている。
 - ・思い込みであった事が修正された。
 - ・歴史本の再考証
 - ・論文執筆

7. 事業評価について

アジア歴史資料センターが行っている事業を5段階評価でお聞きしました。回答数163件のうち、非常に良い、良いと回答した方は、90.8%、5段階評価平均4.39となっています。多くの評価理由から一部を掲載します。

- ・イデオロギーに影響されない研究環境はアジアにおいて唯一ではないかと思います。
- ・原資料が自宅で手軽に見られることは非常にありがたい。映像だけでなくテキスト文書としても入手できる部分がもっと増えると、研究の上で非常に役立つので、今後の発展を期待している。
- ・世界のどこでも日本近代史研究、外交史研究ができるようになりました。同じ資料をベースにした研究によって、アジアにおける歴史問題の解決が困難なことではなくなると思います。非常に有意義な事業だと思います。
- ・アジア近隣との関係が最重要案件になっている昨今、我々一般国民の知りたいことが、いろいろな角度で見れるので面白い。
- ・歴史的資料をインターネット公開することで国民に近づけたことは高く評価できる。
- ・デジタルアーカイブで全国どこからでも貴重な資料がいつでも閲覧できるのは本当に魅力的。扱っている

トピックも有意義だ。公文書というと簡単にアクセスできないイメージがあったけれども、ネットで気軽にアクセスできれば、どんどん興味もわくし調査も進む。教授や研究員などだけでなく、歴史に興味のある一般の方にも有意義だ。気軽に触れて、興味を掘り下げて行ける良いきっかけにもなる、啓蒙にも役立つだろう。

- ・一般に貴センターのことが余り知られていないように思う。ネット環境以外にも更に広報が必要に思う。
- ・日本が保有する歴史資料をインターネットを通じて世界に公開したことは、今後の友好国との歴史認識、特にアジア諸国との共通の歴史観が構築できる基本的なベースとしての価値が非常に高いと思う。
- ・アジアの歴史を振り返ると、日本は良くないことをしていたと言われることが多い。何故そうなったのか？その歴史の真実を探るための資料がここにはあり、再度あのようなことを繰り返さないように、この資料センターは必要なのだと思う。
- ・歴史研究に不可欠な公的原資料がネットで手軽に閲覧出来ることは素晴らしいことです。この事業の継続を期待します。
- ・この事業をいかに幅広く利用者に使ってもらうか、一般の人も含めた利用者の拡大と使いやすさを今後も求めていると思う。

8. まとめ

いろいろな立場の方々から好意的なご意見・ご要望をいただきました。近現代における我が国とアジア近隣諸国との関係にかかわる歴史資料としての公文書、その他の記録をデジタルアーカイブ化して公開していく責任を感じます。今後も、利用者からのご意見を真摯に受け止め発展させていきたいと思いをします。

以上